

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：99999
研究種目：奨励研究
研究期間：2022～2022
課題番号：22H04107
研究課題名 国際バカロレア（IB）MYP「個人と社会」をふまえた中学校社会科の授業開発

研究代表者

今井 信一（Imai, Shinichi）

ぐんま国際アカデミー中等部・教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 480,000円

研究成果の概要：IB機構の公式文書から、概念と探究という観点でのMYPの授業設計の主な特徴は、授業で用いる概念がリスト化されていること、複数の概念を組み合わせる単元の「探究テーマ」を設定すること、「探究テーマ」に基づいて「事実的」「概念的」「議論的」問いを立てることの3点である。MYPの方法で学習指導要領の「中世の日本」の単元を計画し授業を行った。その結果、生徒は概念に関連する適切な中世の具体例を挙げながら「探究テーマ」をふまえて中世の時代の特徴を説明していることから、MYPの方法にそって作成した単元は概念理解という点で一定の効果があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『中学校学習指導要領（平成29年告示）』とその解説では、「概念」に関わる語が多用されているが、特に歴史的分野と地理的分野では、授業の中でどのような概念をいかに扱うのかについては十分に示されていない。MYPが示す概念とその扱い方にそって開発した単元では、生徒は中世の学習内容について概念を用いて説明でき、他の時代や国にも転移させうるアイデア（「探究テーマ」）とむすびつけて理解できた。本研究は、概念を用いた歴史単元の授業構成の具体例を示したことに意義がある。

研究分野：社会科教育

キーワード：国際バカロレア 社会科教育 概念

1. 研究の目的

本研究の目的は、国際バカロレア (IB) の中等教育プログラム (MYP) を手掛かりに、概念理解を重視した探究型の社会科授業を開発し、その特徴と効果を明らかにすることである。まず、概念についての記述に着目して学習指導要領と IB 関連文献等を分析し、概念理解を重視した社会科授業の特徴を整理する。次に、社会科に相当する MYP 教科「個人と社会」の単元計画の方法で、学習指導要領の学習内容「中世の日本」の単元を開発する。最後に、授業の実践と検証を通して、その効果と実践上の留意点及び課題を明らかにする。

2. 研究成果

(1)MYP の概念理解を重視した社会科授業の特徴

『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』では、社会科の指導計画作成の配慮事項として、「分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること」と示されている。また、『中学校学習指導要領解説 社会編』では、「概念」「概念等に関する知識」「概念的な枠組み」といった概念に関わる語が多用されており、公民的分野では「概念的な枠組み」「政治、法、経済などに関する基本的な概念」として「対立と合意」、「民主主義」、「持続可能性」などが挙げられている。しかし、特に歴史的分野と地理的分野では、授業の中でどのような概念をいかに扱うのかについては十分に示されていない。

MYP では、学習内容は規定されていないが、授業で扱う概念が特定されている。IB 機構の公式文書『MYP:原則から実践へ』と『「個人と社会」指導の手引き』によると、MYP において、概念は「学習内容を統合しカリキュラムに一貫性をもたせるもの」であり、「様々な課題を探究するときの媒体であり、科目の本質を掘り下げる手段を提供するもの」とされている。IB における概念の基準は、①時間、場所、空間を横断して意味をもち、重んじられる、②抽象的である、③簡潔である (1,2 語、あるいは短いフレーズで表現される)、④特定の例に共通する属性を表す、の 4 つである。MYP では、教科横断で用いる「重要概念」と教科ごとの「関連概念」の 2 種類の概念がリスト化されている。

表：MYP の「重要概念」と「関連概念」の例

重要概念 (網かけは「個人と社会」に関わりの深い重要概念)	関連概念 (「個人と社会」の「歴史」)
美しさ、変化、コミュニケーション、コミュニティー、つながり、創造性、文化、発展、形式、グローバルな相互作用、アイデンティティー、論理、ものの見方、関係性、システム、時間・場所・空間	因果関係 (原因/結果)、文明、対立、協調、文化、統治、アイデンティティー、イデオロギー、革新と革命、相互依存、ものの見方、重要性

概念と探究という観点での MYP の単元計画の主な特徴として、以下の 3 点が挙げられる。授業で用いる概念がリスト化されていること、複数の概念を組み合わせる単元の「探究テーマ」を設定すること、その「探究テーマ」に基づいて「事実的問い」「概念的問い」「議論的問い」の 3 種の問いを立てることである。「探究テーマ」は単元の枠をこえて転移可能なアイデアとして表現され、生徒は 3 種の問いに答えながら「探究テーマ」を検証して理解を深めていくことになる。

(2)単元の開発

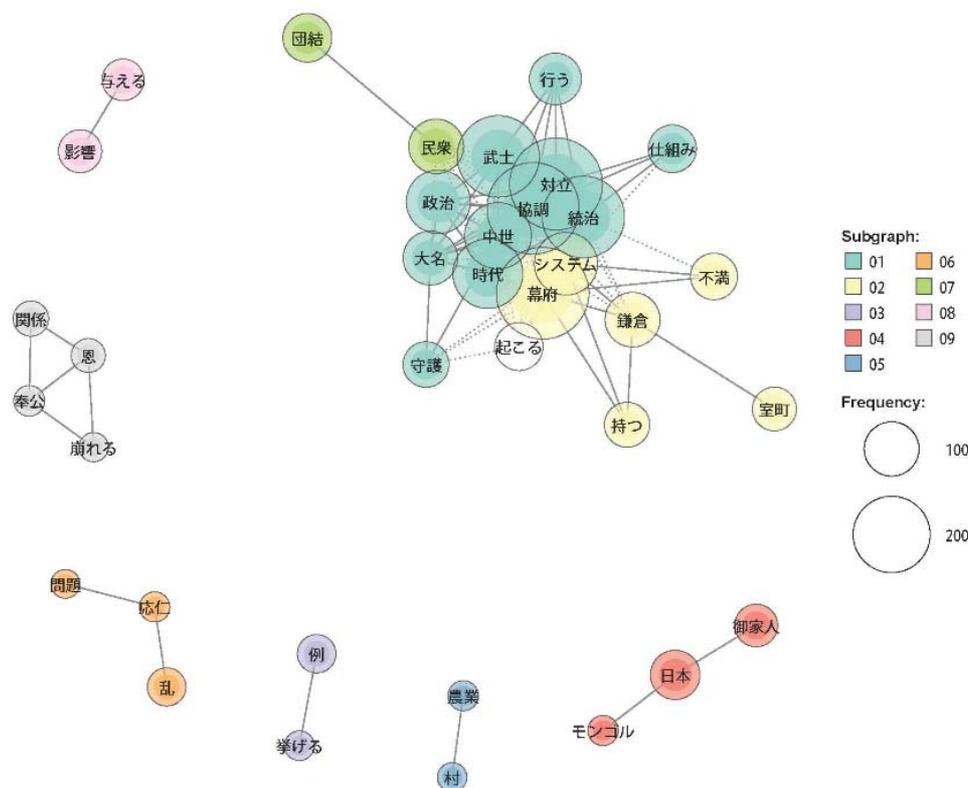
MYP のユニットプランナーを用いてその単元計画の方法にそって学習指導要領の「中世の日本」の内容を扱う全 16 時間 (評価 1 時間を含む) の単元を計画した。

重要概念	関連概念	グローバルな文脈
システム	統治、対立、協調	アイデンティティーと関係性
探究テーマ		
様々な集団間の対立と協調は統治の仕組みに影響を与える		
探究の問い		
事実的問い		
<ul style="list-style-type: none"> ・武士はどのようにして政権を立てるほどに成長して支配を広めたのか。 ・ユーラシアの変化と東アジアとの関わりは、国内にどのような影響をもたらしたのか。 ・武士が支配を広げ、産業が発達する中で、民衆はどのように変化したのか。 		
概念的問い		
<ul style="list-style-type: none"> ・対立や協調はどのような要因で生じるのか。 ・対立や協調は社会にどのような影響を与えるのか。 ・なぜ統治体制の安定を維持することが難しいのか。 		
議論的問い		
<ul style="list-style-type: none"> ・統治する上で対立は良いことだといえるのか。 ・統治する上で協調は良いことだといえるのか。 		

(3)授業の実践と検証

中学1年生90名を対象に授業を行った。教科書等を用いて中世の学習を進めながら、適宜「探究の問い」について考えたり話し合う時間を設けた。単元終了時に、問い『探究テーマ：様々な集団間の対立と協調は統治の仕組みに影響を与える』をふまえて、中世はどのような時代か説明しなさい。』に回答させた。分析には、同意を得られた71名の回答を用いた。

まず、生徒の回答をKH Coderで分析し、共起ネットワーク図を作成した。単元で扱ったMYPの4つの概念同士と「武士」「政治」「大名」「幕府」などが強く結びついていた。全体の傾向としては、生徒は概念を中心として中世の学習用語を関連づけて説明していることが読み取れた。



図：生徒の回答の共起ネットワーク

次に、個別に生徒の記述を見ると、以下のことがわかった。第一に、多くの生徒は、概念に関連する適切な中世の具体例を挙げながら「探究テーマ」をふまえて中世の時代の特徴を説明することができていた。しかし、一部の生徒は、中世の具体的事象を詳細に説明するにとどまって、「探究テーマ」や概念と関連づけて論述できていなかった。「探究テーマ」は3種の問いとあわせて単元のはじめに生徒に提示することとなっているが、加えて各授業のまとめに授業内容と「探究テーマ」・概念との関連を確認することが望ましいと考える。

第二に、「探究テーマ」の一文もしくは部分をそのまま記述し、その論拠として中世の具体的事象を挙げて説明する回答が複数見られた。「探究テーマ」は、学習を方向づけて生徒の概念理解を左右するものである。また、概念をもとに設定されることから、概念ベースといわれるMYPの単元計画で非常に重要である。IB機構の公式文書 *Evaluating MYP unit plans* には、よい「探究テーマ」の基準として、生徒が理解できる方法で重要概念と関連概念を意味ある形をつなげる、転移可能な理解を支えるための特定の学問領域の知識を発展させるなど6項目が挙げられているが、いずれも抽象的でありその解釈はそれぞれの教員に委ねられている。真に学ぶ意義のあるテーマにするには、日本の社会科教育研究の成果や歴史学などの知見が不可欠であると考えられる。

MYPの概念は、複数の単元や教科で繰り返し学習して理解を深めていくものとされている。そのため、今回扱った概念の理解がより深まることを目指して別の単元を開発し、概念理解の変化を検証することが今後の主な課題である。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 今井信一
2. 発表標題 国際バカロレアMYPの概念理解を重視した授業の実践
3. 学会等名 日本グローバル教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------